



Hewlett Packard
Enterprise

HPE OneView 4.2 サポートマトリックス

摘要

このサポートマトリックスでは、HPE OneView を仮想マシンホストにインストールして使用するためのハードウェア、ファームウェアおよびソフトウェアの各要件を示します。

部品番号: P01320-193a
発行: 2019 年 4 月
版数: 2

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。Hewlett Packard Enterprise は本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクを使用すると、Hewlett Packard Enterprise Web サイト外に移動します。Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報は Hewlett Packard Enterprise の管理対象外であり、それらの情報について責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Google[®]は、Google Inc.の登録商標です。

Microsoft[®]、Windows[®]、および Windows Server[®]は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Red Hat[®]は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標または登録商標です。

VMware ESXi[®]は、VMware Inc.の登録商標です。

保証

Hewlett Packard Enterprise は購入日から 90 日以内であれば、問題のある配布メディアを交換します。

目次

アプライアンスの要件.....	5
アプライアンス VM およびホストの要件.....	5
仮想マシンを展開する場所.....	6
DL ベースのハイパーバイザー環境での展開.....	7
HPE BladeSystem ハイパーバイザー環境での展開.....	7
高可用性のプランニング.....	8
ファームウェア要件.....	8
Service Pack for ProLiant (SPP)	8
管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件.....	8
サポートされる Smart Update Tools (SUT).....	11
サポートされるインターネットプロトコル (IP) のバージョン.....	11
サポートされる Web ブラウザーとバージョン.....	12
画面解像度.....	13
サポートされるハードウェアおよびソフトウェア.....	14
管理対象の ProLiant BL および WS サーバーブレード.....	14
管理対象の ProLiant DL ラックマウント型サーバー.....	14
管理対象の ProLiant ML サーバー.....	15
管理対象の ProLiant XL サーバー.....	16
管理対象の ProLiant DL 向けコンポーザブルクラウド.....	16
サーバーハードウェア管理機能.....	17
監視対象サーバーハードウェア.....	19
サーバーハードウェア監視機能.....	19
HPE BladeSystem エンクロージャー.....	20
管理対象ストレージアレイ.....	21
管理対象の SAN スイッチと SAN マネージャー.....	21
ネットワークの LOM カードおよびメザニンカード.....	23
サポート対象の LOM カードとメザニンカード.....	24
インターコネクต์モジュール.....	25
インターコネクットの要件.....	26
Ethernet スイッチ.....	27
アダプターおよび HPE Virtual Connect の構成.....	28
ラックと電源.....	29
サポートされるストレージコントローラー.....	29
ローカルストレージをサポートする ProLiant DL サーバー.....	30
ハイパーバイザーマネージャー.....	30
管理対象ハイパーバイザークラスターのハイパーバイザー.....	31
FIPS および CNSA モードでの HPE OneView 仮想アプライアンスのデバイスサポート.....	32
構成の上限.....	39
割り当てられる ID.....	39
アプライアンス.....	39
接続.....	39
SAN ストレージ.....	40
エンクロージャー.....	40
ネットワークの制限.....	40
ネットワーク.....	41
電源および設備.....	42

サーバーハードウェア.....	42
サーバープロファイル.....	43
証明書チェーンの深さ.....	43
ハイパーバイザークラスタープロファイル.....	43
Web サイト.....	44
HPE OneView Remote Technician.....	45
サポートと他のリソース.....	46
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	46
アップデートへのアクセス.....	46
カスタマーセルフリペア (CSR)	47
リモートサポート (HPE 通報サービス)	47
保証情報.....	47
規定に関する情報.....	47
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	48

アプライアンスの要件

アプライアンス VM およびホストの要件

HPE OneView は、サポートされるハイパーバイザーホスト上で動作する仮想アプライアンスです。

表 1: サポートされるハイパーバイザーとバージョン

ハイパーバイザー	バージョン
VMware vSphere ESXi	<ul style="list-style-type: none">・ 5.5・ 5.5 Update 1・ 5.5 Update 2・ 5.5 Update 3・ 6.0・ 6.0 Update 1・ 6.0 Update 3・ 6.5・ 6.5 Update 1・ 6.5 Update 2・ 6.7・ 6.7 Update 1
Microsoft Hyper-V	<p>Hyper-V は、Hyper-V の役割がインストールされている次の Microsoft Windows プラットフォームでサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ Windows Server 2012 (ProLiant Gen8 および ProLiant Gen9 プラットフォーム)・ Windows Server 2012 R2 (ProLiant Gen10 プラットフォーム)・ Windows Hyper-V Server 2012・ Windows Hyper-V Server 2012 R2・ Windows Server 2016・ Microsoft Hyper-V Server 2016・ Windows Server 2019 長期サービスチャネル (LTSC)
KVM	<ul style="list-style-type: none">・ RHEL 6.10・ RHEL 7.2・ RHEL 7.3・ RHEL 7.5・ RHEL 7.6 ¹

¹ 第 2 世代 Intel Xeon スケーラブル・プロセッサのみサポートします。

アプライアンスの仮想マシン (VM) は ProLiant G7 クラス CPU またはそれ以降の VM ホスト上で実行する必要があります。ハイパーバイザーホストで、以下の最小限のリソース要件が HPE OneView 仮想アプライアンス用に予約されていることを確認します。

- ・ 2 GHz 以上の仮想 CPU 8 個
- ・ 正確に 24 GB のメモリ
- ・ シックプロビジョニングされた最小 275 GB のディスク領域

仮想ディスクを手動で拡張して、ファームウェアリポジトリのサイズを増やすことができます。ベストプラクティスは、VMware vSphere ハイパーバイザーまたは Microsoft Hyper-V ハイパーバイザーでのアプライアンスのインストール時に仮想ディスクを拡張することをお勧めします。

- ・ 管理用とデータ用のネットワークを分離することをお勧めします。

仮想アプライアンスは正確な時間ソースを持っていることが重要です。ネットワークタイムプロトコル (NTP) を使用する仮想アプライアンスの正確な時間を確保するには、次の 2 つのオプションがあります。

ハイパーバイザー上の NTP	ハイパーバイザーホストが NTP を使用するよう構成し、時刻ソースとしてハイパーバイザーホストを使用するように HPE OneView を構成します。
HPE OneView の NTP	HPE OneView が 3 つ以上の NTP サーバーを使用するように構成します。

- ・ ハイパーバイザーホストでは、以下の最小限のリソース要件を予約する必要があります。
 - **Minimum system requirements for installing ESXi/ESX (1003661)** VMware Knowledge Base
 - **Review Prerequisites for Installation** (Hyper-V Server 2012、Hyper-V Server 2012 R2)、Microsoft TechNet
 - **Hyper-V をインストールして仮想マシンを作成する** (Windows Server 2012)、Microsoft Windows Server
- ・ BIOS 設定の電源管理オプション：
 - パワーレギュレーターをスタティックハイパフォーマンスモードに設定する。
 - 電力プロファイルを最大パフォーマンスに設定する。
 - Hewlett Packard Enterprise は、CPU とメモリの予約/共有を推奨します。

仮想マシンを展開する場所

HPE OneView は、**アプライアンス VM およびホストの要件**の要件を満たす ProLiant ハードウェアに展開できます。HPE OneView が管理または監視するハードウェアには、特定の制限が適用されます。

HPE OneView は、以下のハードウェア環境のハイパーバイザーに展開できます。

- ・ **ラックマウント型の ProLiant DL**
- ・ **ブレードシステム**

HPE OneView を使用して HPE OneView が実行されているハイパーバイザーホストを管理する場合は、両方の環境に制限が適用されます。

-
- ❗ **重要:** HPE OneView の仮想アプライアンスは、管理機能専用のハイパーバイザー環境に展開し、本番ハイパーバイザー環境とは別にされることをお勧めします。
-

DL ベースのハイパーバイザー環境での展開

ベストプラクティスは、高可用性 (HA) のハイパーバイザークラスター構成に展開することです。DL ベースのハイパーバイザーの構成環境を使用して HPE OneView を展開することもできます。

監視対象モードで DL サーバーハイパーバイザーホストを HPE OneView に追加します。誤って仮想アプライアンスの電源をオフにしてしまうことのないように、HPE OneView からハイパーバイザーホストの電源をオフにしないでください。

注記: DL ラックサーバーの単一ハイパーバイザーホストを持つ非 HA 構成では、DL ラックサーバーのハイパーバイザーホストを、管理対象サーバーハードウェアとして HPE OneView に追加する機能はサポートされていません。

HPE OneView の仮想アプライアンスがホスト間で移行できる HA 構成では、ホストを管理対象として追加するという制限は依然として適用されますが、VM の移行を利用して回避することが可能です。この方法は間違いを起こしやすい点に注意してください。

注記: 仮想アプライアンスは、仮想アプライアンスが動作しているハイパーバイザーホストを検出できないため、未サポートの操作に関してユーザーに警告を出すことができません。

ベストプラクティスは、HPE OneView を使用して、クラスター内の DL ハイパーバイザーホストを監視することです (管理することではありません)。監視対象モードでは、HPE OneView を使用してホストの電源をオフにする前に、アプライアンスがそのホスト上で動作していないことを確認します。アプライアンスがホスト上で動作している場合は、HPE OneView アプライアンスを別のクラスターメンバーに移行する必要があります。

DL ハイパーバイザーホストが管理対象モードで HPE OneView に追加された場合、さらに以下の制限が適用されます。

- ・ HPE OneView 仮想アプライアンスが現在実行されているハイパーバイザーホストのサーバープロファイルの適用または編集には、そのサーバーのハードウェアの電源をオフにする必要がありますので、できません。
- ・ サーバープロファイルを適用する前に、クラスター内の別のホストにアプライアンスを移行する必要があります。

HPE BladeSystem ハイパーバイザー環境での展開

HPE BladeSystem 構成では、管理対象エンクロージャーのサーバープロファイル接続管理に関する留意事項に加え、**DL サーバーと同じ制限**が課されます。

ブレードシステムの場合、サーバープロファイルは、ブレードサーバーに対するすべてのネットワーク接続をカプセル化し、エンクロージャー内のインターコネクトモジュールと連携して機能します。

非 HA ハイパーバイザー HPE BladeSystem 環境の単一エンクロージャー上にある ESXi ホストの HPE OneView に HPE OneView を展開するときのベストプラクティスは、エンクロージャーの監視であり、管理することではありません。上記と同じ**制限**が引き続き適用されます。現在 HPE OneView アプライアンスが動作している VM ホストの電源をオフにしないでください。

単一エンクロージャー環境、またはエンクロージャーが管理対象モードで HPE OneView に追加されたマルチエンクロージャー環境の場合、エンクロージャーは、非 VC インターコネクトモジュールを含む必要があります。HPE OneView 仮想アプライアンスをサポートするハイパーバイザーホストのストレージおよびネットワーク接続は、これらの非 VC インターコネクトモジュールを使用する必要があります。サー

バープロファイルの操作と電源の操作を実行する場合、その操作を実行している特定のホストで HPE OneView 仮想アプライアンスが実行されないようにしてください。

高可用性のプランニング

HPE OneView を高可用性 (HA) 構成で使用するには、ハイパーバイザーのドキュメントを参照し、特定の要件を確認してください。

アプライアンスの可用性を維持するために、HPE OneView には構成設定および管理データをバックアップファイルに保存するバックアップ機能が用意されています。Hewlett Packard Enterprise は、できれば毎日、および他のキーの構成、ご使用のアプライアンスのバックアップを取ることをお勧めします。

詳細は、オンラインヘルプのアプライアンスのバックアップについておよびアプライアンスをバックアップするためのベストプラクティスのセクションを参照してください。

ファームウェア要件

この項では、HPE OneView で管理する予定のデバイスのファームウェア要件について説明します。

デバイスをアプライアンスに追加してアクティブに管理するには、デバイスが**管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件**(8 ページ)の項に示すファームウェアの最小要件を満たしている必要があります。

注記: 監視対象デバイスのファームウェアは、HPE OneView の管理対象外です。

Service Pack for ProLiant (SPP)

最新の HPE Service Pack for ProLiant (SPP) を <http://hpe.com/info/SPP> からダウンロードし、アプライアンスまたはアプライアンスに追加された外部レポジトリにアップロードします。

注記: SPP の最新のプロダクションバージョンとポストプロダクションバージョンの詳細については、http://h17007.www1.hpe.com/us/en/enterprise/servers/products/service_pack/spp/index.aspx の「重要な注意点」セクションを参照してください。

管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件

HPE OneView がデバイスを検出してそのタイプを判別するには、**最小ファームウェアバージョンが必要です**。これは、**アクティブ管理または監視に必要なファームウェアバージョンとは異なります**。検出のみのレベルのファームウェアを搭載したデバイスは、SPP を使用して最小条件にアップグレードできます。デバイスを HPE OneView に管理対象として追加すると、ファームウェアコンポーネントがアップグレードされます。監視対象のデバイスや、ファームウェアバージョンが HPE OneView 検出に必要なバージョンより古いデバイスの場合は、ファームウェアバージョンを HPE OneView の外で手動で最小要件に更新する必要があります。

注記: ご使用のハードウェアが利用可能なすべての管理機能を活用するために最新かつ最も強力なファームウェアバンドルを搭載するには、アプライアンスに最新のファームウェアバンドルをダウンロードし、それをファームウェアレポジトリに追加します。

エンクロージャーとサーバーを管理対象として追加するときに、Onboard Administrator モジュール、インターコネクトモジュール、および iLO モジュールに対してファームウェアベースラインを指定できません。

表 2: デバイスの検出に必要な最小ファームウェアバージョン

デバイス	ファームウェアのバージョン
HPE Superdome Flex Rack Management Controller	2.4.98
HPE Virtual Connect	3.15
HPE BladeSystem Onboard Administrator	3.00 ¹
iLO 5 (Gen10 サーバー向け)	1.10 ²
iLO 4 (Gen9 サーバー向け)	2.0 ³
iLO 4 (Gen8 サーバー向け)	1.01 ³
iLO 3	1.20 ³

¹ HPE Integrity Superdome X の場合は 6.0.42。

² HPE OneView 4.1 以降は、製品または高セキュリティのいずれかのセキュリティ状態を使用するように構成されている場合に iLO 5 をサポートします。iLO セキュリティ状態の設定の詳細については、iLO ユーザーインターフェイスまたは iLO のドキュメントを参照してください。

³ HPE OneView 4.1 以降は、iLO の標準の暗号化 (デフォルト) 設定または強制 AES/3DES 暗号化設定を使用するように構成されている場合に、iLO 3 と iLO 4 をサポートします。

管理対象デバイスだけが自動的に更新されます。監視対象デバイスは、以下の最小ファームウェアに一致するように、手動でアップグレードする必要があります。

表 3: アクティブな管理、監視、および移行を行うための最小ファームウェアバージョン

デバイス	ファームウェアのバージョン
HPE Superdome Flex Rack Management Controller	2.5.280
HPE Virtual Connect	4.10 ¹
HPE BladeSystem Onboard Administrator	4.01 ^{2、3、4}
すべてが非 Virtual Connect のインターコネクトを搭載した HPE BladeSystem Onboard Administrator	4.31
Virtual Connect と非 Virtual Connect が混在する HPE BladeSystem Onboard Administrator	4.31
iLO 5 (ProLiant DL 向け HPE コンポーザブルクラウド向け)	1.40
iLO 5 (Gen10 サーバー向け)	1.10 ⁵
iLO 4 (Gen9 サーバー向け)	2.03 ⁶
iLO 4 (Gen8 サーバー向け)	1.30 ⁶

表は続く

デバイス	ファームウェアのバージョン
iLO 3	1.61 ⁶
iLO 2	2.13
Gen8 サーバー用 Intelligent Provisioning ⁷	Gen8 AMD システムには 1.61 Gen8 インテルシステムには 1.20
Gen9 サーバー用 Intelligent Provisioning	2.0
SPP	Service Pack for ProLiant (SPP) (8 ページ)を参照してください。
HPE Insight マネジメントエージェント (G6 および G7 サーバーの監視用)	9.20
Emulex コンバージドネットワークアダプター	4.2.401.6 以上

¹ HPE Virtual Connect モジュールのファームウェアに関する注意事項を参照してください。

² 監視サポートのみ。管理対象サポートに必要な最小ファームウェアのバージョンは 4.31 です。

³ HPE Integrity Superdome X の場合は 6.0.42。

⁴ ファームウェアバージョンが 4.70 以降の Onboard Administrator では、スマートカードを使用した Two-Factor 認証の一形態である CAC 認証がサポートされています。HPE OneView は、CAC 認証または **Two-Factor 認証** が有効になっているときは、Onboard Administrator と通信できません。

⁵ HPE OneView 4.1 以降は、**製品**または**高セキュリティ**のいずれかのセキュリティ状態を使用するように構成されている場合に iLO 5 をサポートします。iLO セキュリティ状態の設定の詳細については、iLO ユーザーインターフェイスまたは iLO マニュアルを参照してください。

⁶ HPE OneView 4.1 以降は、iLO の標準の暗号化 (デフォルト) 設定または**強制 AES/3DES 暗号化**設定を使用するように構成されている場合に、iLO 3 と iLO 4 をサポートします。

⁷ Intel ベースシステムの場合は、以下のとおりです。

- ・ サーバープロファイル経由でファームウェアベースラインを管理する場合は、Intelligent Provisioning バージョン 1.20 以降が必要です。
- ・ サーバープロファイル経由で BIOS 設定を管理する場合、iLO バージョン 2.0 以降を搭載するサーバーには Intelligent Provisioning バージョン 1.20 以降が必要です。

Intelligent Provisioning (IP) バージョンを確認するには、サーバー上の iLO にアクセスし、**システム情報**を選択して、**ファームウェア**タブをクリックします。最新バージョンの IP ファームウェアは、**ダウンロード**して入手することができます。

注記: HPE OneView は、アプライアンスにアップロードされた SPP ファームウェアバンドルを使用して、完全管理のために必要な最小バージョンにこれらのデバイスのファームウェアを自動的にアップデートします。

HPE Virtual Connect モジュールのファームウェアに関する注意事項

- ・ それ以前のバージョンの HPE Virtual Connect ファームウェアがインターコネク트에組み込まれている場合は、Virtual Connect Support Utility (VCSU) を使用してファームウェアをバージョン 3.15 にアップデートしてから、デバイスをアプライアンスに追加することをお勧めします。
- ・ HPE OneView は、最小ファームウェアバージョンの 4.10 がインストールされた HPE Virtual Connect ファイバーチャネルモジュールを、IPv6 アドレスを使用して管理および構成できます。それ以前のファームウェアバージョンが組み込まれたモジュールをアプライアンスに追加すると、ファームウェアアップデートの対象としてフラグが設定されます。UI で**論理インターコネクト > アクション > ファームウェアのアップデート**を使用してインターコネクトファームウェアを更新するまで、フラグが設定されたモジュールは非管理の状態で見えます。
- ・ HPE OneView では、CNSA 暗号化に制限されているか、Two-Factor 認証が有効になっている Virtual Connect Manager ドメインの移行はサポートされていません。
- ・ HPE FlexFabric-20/40 F8 モジュールには、Virtual Connect 4.20 以降が必要です。
- ・ HPE Virtual Connect 8Gb 24 ポート FC モジュールには、ファームウェアが 3.01 以降のファイバーチャネルと Virtual Connect 4.40 以降が必要です。
- ・ HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャネルモジュールには、Virtual Connect 4.40 以降が必要です。

サポートされる Smart Update Tools (SUT)

Smart Update Tools (SUT) と統合 Smart Update Tools (iSUT) は、HPE OneView で使用されるソフトウェアユーティリティで、ファームウェアおよびドライバーのアップデートをステージング、インストール、およびアクティブ化します。

サーバー	オペレーティングシステム	SUT タイプ	バージョン
Gen8、Gen9、および Gen10	Windows	Windows 用の iSUT	SUT 2.0.0 以降 SUT 2.3.0 以降 (推奨)
Gen8、Gen9、および Gen10	Linux	Linux 用の iSUT	SUT 2.0.0 以降 SUT 2.3.0 以降 (推奨)
Gen8 および Gen9	ESXi	ESXi 用の SUT	SUT 2.0.0 以降 SUT 2.3.0 以降 (推奨)
Gen10	ESXi	ESXi 用の iSUT	SUT 2.3.6 以降

サポートされるインターネットプロトコル (IP) のバージョン

HPE OneView アプライアンスでは、2 つの IP ネットワークモードをサポートしています。

- ・ デフォルトでは IPv4
- ・ IPv6

これらのネットワークモードの詳細については、HPE OneView インストールガイドを参照してください。

IPv4 モード

IPv4 モードでは、HPE OneView のすべての管理機能をサポートしています。

HPE OneView アプライアンスまたは管理対象デバイス	IPv4 (必須またはオプション)	IPv6 (必須またはオプション)
HPE OneView アプライアンス	必須	オプション
管理対象デバイス	必須	オプション

IPv6 モード

IPv6 モードでは、HPE OneView の機能が一部サポートされていない場合があります。サポート制限には、例外が示されます。

HPE OneView アプライアンスまたは管理対象デバイス	IPv4 (必須またはオプション)	IPv6 (必須またはオプション)
HPE OneView アプライアンス	無効	必須
管理対象デバイス	オプション	必須

重要 : アプライアンスの初期セットアップ中にネットワークパラメーターを構成する際に、アプライアンスのネットワークモードを設定できます。IPv4 が有効の場合、アプライアンスは IPv4 モードになります。IPv4 が無効の場合、アプライアンスは IPv6 モードになります。初期セットアップ手順が完了したら、アプライアンスのネットワークモードは、工場出荷時設定に完全にリセットしない限り変更はできません。このような制限があるため、IPv4 モードで実行されているアプライアンスを、アップグレード後であっても IPv6 に切り替えることはできません。

サポートの制限

- IPv6 アドレスがサポートされるのは、管理対象となるラックマウント型サーバーに限定されます。C7000 エンクロージャーおよびブレードは、アプライアンスでエンクロージャーの追加オプションが有効になっていても、サポートされません。
- HPE OneView にサーバーを追加する場合は、IPv6 アドレスを範囲指定することはできません。
- HPE OneView は、IPv6 用に構成されていると、IPv4 ネットワーク上のデバイス間の通信を送受信できません。
- IPv6 モードではストレージシステムはサポートされません。
- IPv6 モードでは、リモートのサポートはありません。
- バックアップは、同じネットワークモードを使用してアプライアンスにのみリストアできます。

サポートされる Web ブラウザーとバージョン

以下の Web ブラウザーは、HPE OneView で使用するためにテストされ、適格とされました。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 11
- Microsoft Edge
- Mozilla Firefox バージョン 64.x
- Mozilla Firefox ESR (延長サポート版) バージョン 52.x
- Google Chrome バージョン 71.x

-
- ❗ **重要:** Hewlett Packard Enterprise は、サポートされる Web ブラウザーの新しいバージョンおよびアップデートをサポートできるように最大限努力します。ただし、新しいバージョンが予想どおりに動作しない場合があります。現在のリリースの HPE OneView でのサポートを不可能にする問題が Web ブラウザーにあたり、Web ブラウザーのリリース時期と HPE OneView でその Web ブラウザーをサポートできる時期との間が空いたりする場合があります。このような場合、Hewlett Packard Enterprise は、HPE OneView の次のメンテナンスリリースまたはフルリリースで新しいブラウザバージョンをサポートできるように取り組みます。

テストされていない新しいバージョンの Web ブラウザーに関する問題が発生した場合は、認定サポート担当者にレポートを提出してください。場合によっては、前のバージョンのサポート対象の Web ブラウザーに戻すことが、短期的な解決策となる可能性があります。

画面解像度

- ・ 最小解像度 : 1024 x 768
- ・ 推奨の解像度 : 1280 x 1024 以上

サポートされるハードウェアおよびソフトウェア

注記: HPE OneView 4.1 以降では、MD5 デジタル署名を使用した管理対象デバイス証明書はサポートされません。

注記: サポートされている HPE ストレージ製品構成の詳細については、<http://www.hpe.com/storage/spock> を参照してください。

① **重要:** HPE OneView は、サポートされないコンポーネントを含んでいるエンクロージャーを管理または監視しないため、サポートされていないコンポーネントが検出された場合に警告メッセージが表示されます。

管理対象の ProLiant BL および WS サーバースレード

以下のサーバースレードモデルは、管理対象として追加することができます。

表 4: 管理対象の ProLiant BL および WS サーバースレード

モデル	G7	Gen8	Gen9	Gen10
BL420c		✓		
BL460c	✓	✓	✓	✓
BL465c	✓	✓		
BL490c	✓			
BL620c	✓			
BL660c		✓	✓	
BL685c	✓			
WS460c (シングル幅およびダブル幅のブレード)		✓	✓	✓

管理対象の ProLiant DL ラックマウント型サーバー

以下のラックマウント型サーバーモデルは、管理対象として追加することができます。

表 5: 管理対象の ProLiant DL ラックマウント型サーバー

モデル	Gen8	Gen9	Gen10
DL20		✓	✓
DL60		✓	

表は続く

モデル	Gen8	Gen9	Gen10
DL60e		✓	
DL80		✓	
DL80e		✓	
DL120		✓	✓
DL160	✓	✓	✓
DL180		✓	✓
DL320e	✓		
DL320e v2	✓		
DL320p		✓	
DL325			✓
DL360		✓	✓
DL360e	✓		
DL360p	✓		
DL380		✓	✓
DL380e	✓		
DL380p	✓		
DL380z	✓		
DL385			✓
DL385p	✓		
DL560	✓	✓	✓
DL580	✓	✓	✓

管理対象の ProLiant ML サーバー

以下の ML サーバーモデルは、管理対象として追加することができます。

表 6: 管理対象の ProLiant ML サーバー

モデル	Gen8	Gen9	Gen10
ML110			✓
ML350		✓	✓
ML30			✓

管理対象の ProLiant XL サーバー

以下の XL サーバーモデルは、管理対象として追加することができます。

表 7: 管理対象の ProLiant XL サーバー

モデル	Gen9	Gen10
XL170r	✓	✓
XL190r	✓	✓
XL230a	✓	
XL230b	✓	
XL230k		✓
XL250a	✓	
XL260a	✓	
XL2x260w	✓	✓
XL270d	✓	✓
XL280d	✓	✓
XL420	✓	✓
XL450	✓	✓

管理対象の ProLiant DL 向けコンポーザブルクラウド

このソリューションには、2 個、4 個、または 6 個のコンポーザブルファブリック FM 3180 ラック接続モジュールと 5.0 HPE コンポーザブルファブリックマネージャーが必要です。

ProLiant DL 向け HPE コンポーザブルクラウドのソリューションの一部として購入した場合のみ、一部の HPE OneView の機能を使用できます。このソリューションの構成には、HPE ProLiant DL Gen10 サーバーごとの個別の ProLiant DL 向け HPE コンポーザブルクラウドのソフトウェアライセンスが含まれています。HPE コンポーザブルファブリックマネージャー付き HPE OneView インテグレーションなど、ソリューション固有の機能を使用する権利は、これらのライセンスによって付与されます。

モデル	最小ファームウェア	Gen10
ProLiant DL380	iLO 5 バージョン 1.40	✓
ProLiant DL360	iLO 5 バージョン 1.40	✓
HPE イーサネット 10/25Gb 2p 631FLR-SFP28 アダプター	214.0.203000 バージョン以降	

ProLiant DL 向け HPE コンポーザブルクラウドの詳細情報については、[Hewlett Packard Enterprise 情報ライブラリ](#)を参照してください。

サーバーハードウェア管理機能

アプライアンスは、管理対象として追加された場合のサーバーハードウェアで以下の機能をサポートします。

機能	サポートされるサーバーハードウェア		
	HPE ProLiant BL G7 ¹ 、 ²	HPE ProLiant BL Gen8/Gen9/Gen10 および HPE ProLiant WS Gen8/Gen9/Gen10	HPE ProLiant DL Gen8/Gen9/Gen10、HPE ProLiant ML Gen9、および HPE ProLiant XL Gen9/Gen10
サーバーの電源のオン/オフ	✓	✓	✓
インベントリデータの表示	✓	✓	✓
電源、冷却、および使用率の監視 ³	✓	✓	✓
ヘルスおよびアラートの監視	SNMP エージェントを手動でインストールおよび構成した場合	✓ ⁴	✓ ⁴
注記: SNMP エージェントは ESXi では使用できません。			
iLO のリモートコンソールの起動 ⁵	✓	✓	✓
iLO Web インターフェイスへの SSO (シングルサインオン)	✓	✓	✓
アプライアンスに追加するとき、ファームウェアのサポートされる最小バージョンへの自動アップグレード (iLO)	✓	✓	✓

表は続く

機能	サポートされるサーバーハードウェア		
	HPE ProLiant BL G7 ^{1、2}	HPE ProLiant BL Gen8/Gen9/Gen10 および HPE ProLiant WS Gen8/Gen9/Gen10	HPE ProLiant DL Gen8/Gen9/Gen10、HPE ProLiant ML Gen9、および HPE ProLiant XL Gen9/Gen10
ラックのビジュアル化および編集	✓	✓	✓
サーバーハードウェアタイプの自動検出	✓	✓	✓
リモートサポート ⁶		✓ ⁷	✓
サーバープロファイル機能：			
BIOS 設定		✓	✓ ⁸
ファームウェア		✓	✓
ネットワークへの接続	✓	✓	✓
ブート順序 ⁹	✓	✓	✓ ^{8、10}
ローカルストレージ ¹¹		✓	✓ ^{12、13}
SAN ストレージ	✓	✓	
Insight Control および Insight Control サーバープロビジョニング	✓	✓ ¹⁴	✓ ¹⁴

¹ アプライアンスは、ダブルワイド、倍密度の一部の ProLiant G7 サーバーブレードモデルに関して、サポート対象外というステータスを報告することがあります。これは、アプライアンスがそのモデルを管理できないことを意味します。

² SPP 2017.04.0 の時点で、すべての G7 サーバーはベースライン（「フリーズ」）になり、Gen10 からサポート対象外となります。

³ すべてのサーバーが電源、冷却、および使用率の監視をサポートしているわけではありません。

⁴ 最適な情報を得るには、サーバー OS に Agentless Management Service (AMS) をインストールします。

⁵ リモートコンソールは、OS の起動時まで動作します。OS の起動後、HPE ProLiant DL のリモートコンソールでは iLO Advanced ライセンスが必要になります。

⁶ iLO バージョン 2.1 以降が必要です。

⁷ HPE ProLiant WS Gen8 はサポートされていません。

⁸ HPE ProLiant DL580 Gen8 はサポートされていません。ローカルストレージをサポートしているモデルのリストについては、[ローカルストレージをサポートする ProLiant DL サーバー](#)を参照してください。

⁹ 2014 年 8 月 27 日以前の BL Gen9 サーバー ROM の制限のため、ブートモードが UEFI または UEFI 最適化に設定されている場合、プライマリブートデバイスを設定することはできません。ブート順序の管理を選択すると、対応するプロファイルにこの状況を示す警告が表示されます。

¹⁰ HPE ProLiant XL260a は UEFI クラス 3 サーバー（UEFI ブートのみサポート）であるためブート順序はサポートされていません。

- 11 内蔵アレイコントローラーでのみサポートされます。M.2 ドライブは、特定の構成でサポートされています。詳細については、[サポートされているストレージコントローラー](#)を参照してください。
- 12 HPE ProLiant DL Gen8 および Gen9 サーバーハードウェアの選択モデルがローカルストレージをサポートします。ローカルストレージをサポートしているモデルのリストについては、[ローカルストレージをサポートする ProLiant DL サーバー](#)を参照してください。
- 13 ローカルストレージは、XL170r、XL190r、および XL260w Gen10 サーバープラットフォームではサポートされていません。また、ローカルストレージは、XL260w Gen9 サーバーではサポートされていません。
- 14 HPE Insight Control および Insight Control サーバープロビジョニングは Gen10 プラットフォームではサポートされていません。

監視対象サーバーハードウェア

ラックマウント型サーバーおよびブレードサーバーを追加して、ハードウェアを監視することができます。監視対象としてサポートされるサーバーは、以下のとおりです。

- ・ ハーフハイトまたはフルハイトのすべての ProLiant BL G6 (iLO 2 を搭載)
- ・ ProLiant BL680c G7
- ・ すべての ProLiant DL G6 (iLO 2 を搭載)
- ・ すべての ProLiant DL G7
- ・ すべての ProLiant ML Gen8、Gen9、または Gen10
- ・ すべての ProLiant XL サーバー
- ・ HPE BL920s Gen8 または Gen9
- ・ HPE Superdome Flex サーバー
- ・ 管理対象としてリストされた、監視が可能なすべてのサーバー

注記: BL220c G7 はサポートされません。

ML10 では監視はサポートされません。

サーバーハードウェア監視機能

サーバーハードウェアを監視するときに、アプライアンスは以下の機能をサポートします。

機能	監視対象サーバーハードウェア				
	ProLiant BL および DL G6 (iLO 2 搭載)	ProLiant BL および DL G7	ProLiant BL、DL、ML、XL Gen8/Gen9/Gen10	ProLiant BL920 Gen8/Gen9 (HPE BladepSystem Superdome)	HPE Superdome Flex サーバー (ラックマナー ジャー)
サーバーの電源のオン/オフ	✓	✓	✓	✓	✓
インベントリデータの表示	✓	✓	✓	✓	✓

表は続く

機能	監視対象サーバーハードウェア				
	ProLiant BL および DL G6 (iLO 2 搭載)	ProLiant BL および DL G7	ProLiant BL、DL、ML、XL Gen8/Gen9/Gen10	ProLiant BL920 Gen8/Gen9 (HPE Bladecore Superdome)	HPE Superdome Flex サーバー (ラックマナー ジャー)
電源、冷却、および使用率の監視 ¹		✓	✓	✓ ²	
ヘルスおよびアラートの監視	SNMP エージェントを手動でインストールおよび構成した場合 ³	SNMP エージェントを手動でインストールおよび構成した場合 ³	✓	✓	✓
iLO のリモートコンソールの起動		✓	✓		
リモートサポート			✓ ⁴		✓
SSO (シングルサインオン)		✓ ⁵	✓ ⁵	✓ ⁶	

¹ すべてのサーバーが電源、冷却、および使用率の監視をサポートしているわけではありません。

² 使用率はサポートされていません。

³ SNMP エージェントは ESXi 5.x および 6.x では使用できません。

⁴ ProLiant ML10 はリモートサポートではサポートされません。

⁵ iLO Web インターフェイスに対する SSO

⁶ Onboard Administrator (OA) に対する SSO OA ファームウェアバージョン 8.4.84 以降が必要です。

HPE BladeSystem エンクロージャー

c7000 エンクロージャーでは、リモートサポートのご利用が可能です。

管理対象または監視対象として追加できるエンクロージャーは、以下のとおりです。

- ・ HPE BladeSystem c7000 エンクロージャー
- ・ HPE BladeSystem c7000 エンクロージャー (RoHS 準拠)
- ・ HPE BladeSystem c7000 Platinum エンクロージャー (Platinum)

注記: HPE BladeSystem c3000 エンクロージャーはサポートされていません。

以下のエンクロージャーは、監視対象のみとして追加できます。

HPE BladeSystem Superdome エンクロージャー

以下のラックマネージャーは、監視対象のみとして追加できます。

HPE Superdome Flex サーバー

詳細情報

- ・ [HPE BladeSystem c7000 エンクロージャー](#)
- ・ [HPE BladeSystem Superdome エンクロージャー](#)
- ・ [HPE Superdome Flex ラックマネージャー](#)

管理対象ストレージアレイ

このセクションでは、HPE OneView ストレージ自動化機能でサポートされているストレージシステムのバージョンについて説明します。<http://www.hpe.com/storage/spock> を参照して相互運用性について確認し、ご使用の環境でストレージシステムを構成する際に従う必要のあるサポート要件を確認してください。

- ・ HPE 3PAR
 - リストされている StorServ 7000、8000、9000、10000、20000、および 20000 R2 ファミリプラットフォームでサポートされているファームウェアバージョンは、以下のとおりです。
 - 3PAR OS 3.1.3 MU1、MU2、MU3
 - 3PAR OS 3.2.1 MU1、MU2、MU3、MU4、MU5
 - 3PAR OS 3.2.2 MU1、MU2、MU3、MU4、MU6
 - 3PAR OS 3.3.1 EGA、MU1、MU2、MU3、MU4
- ・ HPE StoreVirtual
 - StoreVirtual 3200 LHOS 13.x
 - StoreVirtual VSA LHOS 12.x
 - StoreVirtual LHOS 13.6
- ・ HPE Nimble
 - Nimble OS 4.5
 - Nimble OS 5.0
 - Nimble OS 5.1

管理対象の SAN スイッチと SAN マネージャー

このセクションでは、HPE OneView で管理する SAN 自動化機能（自動ゾーニングを含む）でサポートされている SAN マネージャーの最小バージョンについて説明します。<http://www.hpe.com/storage/spock> を参照して相互運用性について確認し、ご使用の環境で SAN スイッチを構成する際に従う必要のあるサポート要件を確認してください。

HPE FlexFabric スイッチ

HPE FlexFabric 5700 製品（HPE Comware ソフトウェアバージョン 7.1.045 リリース 2422 搭載）：

- ・ HPE FlexFabric 5700 40XG 2QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5700 32XGT-8XG 2QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5700 48G-4XG 2QSFP+ スイッチ

HPE FlexFabric 5900 製品 (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.045 リリース 2422.x 搭載) :

- ・ HPE FlexFabric 5900CP 48XG 4QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5900AF 48XG 4QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5900AF 48XGT 4QSFP+ スイッチ

HPE FlexFabric 5930 製品 (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.045 リリース 2422.x 搭載) :

- ・ HPE FlexFabric 5930 32QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5930 2 スロット 2QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5930 4 スロット スイッチ

HPE FlexFabric 5940 製品 (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070 リリース 2609H01 搭載) :

- ・ HPE FlexFabric 5940 48SFP+ 6QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 48XGT 6QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 48XGT 6QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 48SFP+ 6QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 32QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 2-スロット スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 4-スロット スイッチ

HPE FlexFabric 5710 スイッチ (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070、リリース 2612P03 搭載)

注記: FF5940 による活用

- ・ HPE FlexFabric 5710 48SFP+ 6QSFP+ スイッチまたは 2QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5710 48XGT 6QSFP+ スイッチまたは 2QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5710 24SFP+ 6QSFP+ スイッチまたは 2QSFP28 スイッチ

HPE FlexFabric 5950 製品 (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070、R6205P03H01) :

- ・ HPE FlexFabric 5950 48SFP28 8QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5950 4 スロット スイッチ

HPE FlexFabric 79xx シャーシ スイッチ (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070 リリース 2138.x 搭載) :

- ・ HPE FlexFabric 7904 スイッチシャーシ
- ・ HPE FlexFabric 7910 スイッチシャーシ

HPE FlexFabric 5980 製品 (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070、リリース 2712H03 搭載) :

HPE FlexFabric 5980 48SFP+ 6QSFP28 スイッチ

注記: 7900 で活用。

HPE FlexFabric 129xxx シャーシスイッチ (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070 リリース 1138.x 搭載) :

- ・ HPE FlexFabric 12916 スイッチ AC シャーシ
- ・ HPE FlexFabric 12910 スイッチ AC シャーシ

Brocade スイッチ

HPE Network Advisor または Brocade Network Advisor (BNA) ソフトウェア 12.1.4、12.1.5、12.1.6、12.3.1、12.3.3、12.3.4、12.4、12.4.1、12.4.2、12.4.3、12.4.4、14.0、14.0.1、14.0.2、14.0.3、14.2.1、14.2.2、14.3.1、14.4.2、および 14.4.3 を搭載した Brocade 8 Gb、16 Gb、および 32 Gb FC SAN スイッチ

注記: BNA 14.2.0 および 14.4.1 は、一部の HPE OneView リリースでは正常に動作しないことが確認されています。

Cisco Nexus スイッチ

Cisco Nexus 5500/5600/6000 モデル — NX-OS 6.0、7.0、7.1、7.2、8.3 :

- ・ Cisco Nexus 5548UP
- ・ Cisco Nexus 5596UP
- ・ Cisco Nexus 5672UP
- ・ Cisco Nexus 6001P
- ・ Cisco Nexus 6004EF

Cisco MDS スイッチ

Cisco MDS 9xxx モデル 8、16、32 Gb FC SAN スイッチ - NX-OS 6.2、8.1、8.2、8.3

ネットワークの LOM カードおよびメザニンカード

次のアダプターがサポートされています。アダプターがリストにない場合は、**非管理サポート**にあります。非管理サポートとは、そのアダプターはサーバーに搭載され、必要に応じて動作できるが、HPE OneView によって管理されないことを意味します。アダプターが接続されているモデルによっては、まだアダプターが使用可能な場合があります。たとえば、インターコネクトモジュールです。アプライアンスは、アプライアンス UI のサーバーハードウェアまたはサーバーハードウェアタイプ画面で、アダプターの存在を報告します。

注記: これらのコンポーネントを外部ストレージで使用する場合は、以下のコンポーネントを外部ストレージで使用する際の詳細とその他の相互運用性およびサポート要件に関する情報について、<http://www.hpe.com/storage/spock> を参照してください。

注記: ファームウェアバンドルに管理対象外のアダプターのアップデートが含まれている場合、サーバープロファイルによって管理されるサーバー内の管理対象外のアダプターをアップデートできます。

サポート対象の LOM カードとメザニンカード

FlexFabric アダプター

- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 534M アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 554M アダプター
- ・ HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 630M アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 650M アダプター
- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 534FLB アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 536FLB アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 554FLB アダプター
- ・ HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 630FLB アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 650FLB アダプター
- ・ HPE FlexFabric 10Gb デュアルポート NC551i コンバージドネットワークアダプター
- ・ HPE FlexFabric 10Gb デュアルポート NC553i コンバージドネットワークアダプター

¹ iSCSI CHAP の名前は最大 128 文字です。

Ethernet および Flex-10 Ethernet アダプター

- ・ HPE Flex-10 10Gb 2 ポート 530M アダプター
- ・ HPE Flex-10 10Gb 2 ポート 530FLB アダプター
- ・ HPE Flex-10 10Gb 2 ポート 552M アダプター

ファイバーチャネルアダプター

- ・ HPE QMH2572 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター、c-Class BladeSystem 用
- ・ HPE QMH2672 16Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター、c-Class BladeSystem 用
- ・ QLogic QMH2562 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター for BladeSystem
- ・ HPE LPe1205A 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター for BladeSystem
- ・ HPE LPe1605 16Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター for BladeSystem
- ・ Emulex LPe1205-HPE 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター for BladeSystem

インターコネクトモジュール

注記: 外部ストレージでこれらのコンポーネントを使用する場合は、<http://www.hpe.com/storage/spock>を参照して相互運用性について確認し、ご使用の環境でこれらを構成する際はサポート要件も確認してください。

表 8: サポートされるインターコネクトモジュール

デバイス	フルサポート	監視対象サ ポート c7000 ¹	非管理サポー ト c7000 ²	非管理サポー ト Superdome ⁷
HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 モジュール ³	✓			
HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 TAA モジュール ³	✓			
HPE Virtual Connect FlexFabric 10Gb/24 ポートモジュール	✓			
HPE Virtual Connect Flex-10 10Gb Ethernet モジュール	✓			
HPE Virtual Connect Flex-10/10D モジュール	✓			
HPE Virtual Connect 8Gb 20 ポートファイバーチャンネルモジュール	✓			
HPE Virtual Connect 8Gb 24 ポートファイバーチャンネルモジュール ⁴	✓			
HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャンネルモジュール ^{4, 8}	✓			
HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャンネル TAA モジュール ^{4, 9}	✓			
HPE BladeSystem 向け Cisco Fabric Extender ⁵	✓ ⁶	✓		
HPE 1/10 Gb Ethernet スイッチパススルーモジュール			✓	✓
HPE 6127XLG ブレードスイッチ			✓	✓
HPE 6125XLG ブレードスイッチ			✓	✓
HPE 6120G/XG ブレードスイッチ			✓	✓
HPE BladeSystem 向け Brocade 16Gb SAN スイッチ c-Class			✓	✓

表は続く

デバイス	フルサポート	監視対象サ ポート c7000 ¹	非管理サポー ト c7000 ²	非管理サポー ト Superdome ⁷
BladeSystem 向け HPE 4X FDR InfiniBand ス イッチ c-Class			✓	✓
その他の HPE および他社製インターコネク トモジュールすべて			✓	

¹ 基本的な電源およびヘルスの監視に使用できます。

² 非管理サポートとは、そのデバイスはエンクロージャーに搭載したままで動作できるが、HPE OneView によって管理されないことを意味します。

³ サポートされている Virtual Connect の最小ファームウェアバージョンは 4.20 です。

⁴ HPE OneView でモジュールを管理するには、ファームウェアバージョン 3.01 以降のファイバーチャネルが必要です。サポートされている Virtual Connect の最小ファームウェアバージョンは 4.40 です。

⁵ Cisco Nexus B22 Blade Fabric Extender for HPE と呼ばれます。

⁶ 個別の HPE OneView B22HP FEX Management ライセンスが必要です。

⁷ これらのインターコネクは、HPE BladeSystem Superdome エンクロージャーでサポートされています。HPE BladeSystem Superdome エンクロージャーは、監視対象のみとして追加できます。

⁸ このモジュールでは、部品番号 751465-B21 および P08475-B21 がサポートされます。

⁹ このモジュールでは、部品番号 778720-B21 および P08476-B21 がサポートされます。

インターコネクの要件

すべてのインターコネクモジュールに対する要件

- 各 VC Enet モジュールでの 10GBase-T SFP+ トランシーバ数の上限については、Virtual Connect リリースノートを参照してください。
- 水平方向のペアとなるインターコネクモジュール（たとえば、エンクロージャーのベイ 1 とベイ 2）は、同じモデルである必要があります。ペアとなるベイを未装着にすることもできますが、水平方向の冗長性が失われます。

c-Class BladeSystem 用の HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40F8 モジュール、c-Class BladeSystem 用 HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャネルモジュール、c-Class BladeSystem 用の Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャネル TAA モジュールの場合

- お客様は、Virtual Connect、ファイバーチャネルなどの c-Class インターコネクデバイスのリモートサポートを管理、監視、および提供できるようになりました。

OneView Remote Support によってサポートされるインターコネクを以下に示します。

- c-Class BladeSystem 用 HP Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 モジュール
- HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポート ファイバーチャネルモジュール for c-Class BladeSystem

HPE Virtual Connect 8Gb 20 ポートファイバーチャネルモジュール、HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャネルモジュール、および HPE Virtual Connect 8Gb 24 ポートファイバーチャネルモジュールに対する要件

- ・ インターコネクトモジュールは、ファブリック接続用のみとする必要があります。
- ・ インターコネクトのファームウェアバージョンは、**管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件**(8 ページ)に記載されているファームウェアバージョン以上である必要があります。
- ・ インターコネクトモジュールをベイ 1 または 2 に配置することはできません。

HPE Virtual Connect FlexFabric - 20/40 F8 モジュールに対する要件

- ・ インターコネクトモジュールのエンクロージャー内に 10 個のファンが必要です。
- ・ 1 つのエンクロージャー内に 6 個を超える HPE Virtual Connect FlexFabric - 20/40 F8 モジュールを挿入しないでください。
- ・ 4x10G 操作用に構成されている場合、QSFP +ポートをリモート側の 4 つの SFP+ポートに多重化するために、付属の分岐ケーブルで接続可能なモジュールを取り付ける必要があります。
- ・ HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 モジュールは、次の SKU の c7000 エンクロージャーでサポートされています。5XXXXX-B21、6XXXXX-B21、および 7XXXXX-B21。

FCoE は、以下のインターコネクトおよび対応するポート上でサポートされます。

- ・ HPE Virtual Connect FlexFabric 10Gb/24 ポート、ポート X1-X4 のみ
- ・ HPE Virtual Connect Flex-10/10D Ethernet モジュール、ポート X1-X10
- ・ HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 モジュール、ポート Q1-Q4、X1-X8

詳細情報

管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件

Ethernet スイッチ

以下の Ethernet スイッチは、HPE Virtual Connect Flex-10、FlexFabric インターコネクト、および Cisco ファブリックエクステンダーモジュールに接続されている場合に、監視と基本的な構成がサポートされます。物理スイッチの情報、物理ポートの情報、ポートの統計情報、ヘルスイベントとポート状態の変更、およびエンクロージャーエッジとアップストリームスイッチ間のネットワークの可用性を監視できます。オプションで、エンクロージャーエッジポートとアップストリームスイッチポート間のポート状態およびネットワークプロビジョニングの制御を基本構成の一部として有効にすることができます。

スイッチタイプ	最小サポート対象バージョン
Cisco Nexus 5548UP スイッチ	NX-OS 6.0(2)N2(7)
Cisco Nexus 5596UP スイッチ	NX-OS 7.0(8)N1(1)
	NX-OS 7.1
	NX-OS 7.2
	NX-OS 7.3 ¹
Cisco Nexus 5672UP スイッチ	NX-OS 6.0(2)N2(7)
Cisco Nexus 5612UP スイッチ	NX-OS 7.0(8)N1(1)

表は続く

スイッチタイプ	最小サポート対象バージョン
	NX-OS 7.1
	NX-OS 7.2
	NX-OS 7.3 ¹
Cisco Nexus 6001P スイッチ	NX-OS 7.0(8)N1(1)
Cisco Nexus 6004EF スイッチ	NX-OS 7.1
	NX-OS 7.2
	NX-OS 7.3 ¹

¹ Cisco のサポート制限により、NX OS 7.3(2)N1(1) バリエーションはサポートされていません。詳細は、「Cisco 欠陥：SR 683379290」を参照してください。

アダプターおよび HPE Virtual Connect の構成

HPE OneView は、以下のアダプターおよび HPE Virtual Connect モジュールの構成を経由するネットワーク接続をサポートしています。

表 9: サポートされた FLB/LOM/メザニンアダプター構成

構成	FlexFabric アダプター	Flex-10 アダプター	イーサーネットアダプター
HPE Virtual Connect FlexFabric 20/40 F8 モジュールで、VC f/w 4.50 および HPE FlexFabric 20Gb 2ポート 650FLB/M アダプターまたは HPE FlexFabric 10GB 2ポート 556FLB アダプター搭載のもの	物理ポートごとに 8 つの FlexNIC または 7 つの FlexNIC と 1 つの FlexHBA ¹	物理ポートごとに 4 つの FlexNIC (Ethernet のみ)	接続なし
HPE Virtual Connect FlexFabric 10Gb/24ポートモジュール	物理ポートごとに 4 つの FlexNIC または 3 つの FlexNIC と 1 つの FlexHBA	物理ポートごとに 4 つの FlexNIC (Ethernet のみ)	

表は続く

構成	FlexFabric アダプター	Flex-10 アダプター	イーサーネットアダプター
HPE Virtual Connect Flex-10/10D モジュール	物理ポートごとに 4 つの FlexNIC (Ethernet のみ)		
HPE Virtual Connect Flex-10 10Gb モジュール			
Ethernet インターコネクト (外部マネージャー)	2x 物理ポート ²		

¹ 4 つの FlexNIC の内の 1 つは、FCoE (Fibre Channel over Ethernet) を使用してストレージ機能を構成できます。Ethernet は 4 つすべての FlexNIC で使用できます。HPE OneView は、デバイスタイプ、ネットワークまたは VLAN の設定、帯域幅の設定など、サーバープロファイル接続を使用して FlexNIC ネットワーク接続を構成します。

² HPE OneView によって管理されません。HPE OneView は、物理ポートを未構成のデフォルトの状態に維持します。エンクロージャーの隣接 IO ベイで標準の Ethernet インターコネクトまたは Ethernet パススルーモジュールを使用して、ネットワーク接続を行うことができます。

ラックと電源

- ・ HPE Intelligent パワーディストリビューションユニット (ファームウェアバージョン 1.4 以降)
- ・ HPE Intelligent シリーズラック
- ・ ソフトウェアおよびファームウェア用 HPE Location Discovery Service (位置情報検出機能) (以下の SKU の ProLiant DL Gen8 ラックマウント型サーバーおよび HPE BladeSystem c7000 エンクロージャー): 5XXXXX-B21、6XXXXX-B21、および 7XXXXX-B21

サポートされるストレージコントローラー

サーバープロファイルのローカルストレージを構成する際、以下の内蔵コントローラーがサポートされません。

- ・ HPE Smart アレイ P220i
- ・ HPE Smart アレイ P230i
- ・ HPE Smart アレイ P244br
- ・ HPE Smart アレイ P246br
- ・ HPE Smart アレイ P420i
- ・ HPE Smart アレイ P440ar
- ・ HPE Smart アレイ P830i
- ・ HPE Smart アレイ P840ar
- ・ HPE Dynamic Smart アレイ B140i
- ・ HPE Dynamic Smart アレイ B320i

- ・ HPE Dynamic Smart アレイ S100i
- ・ HPE Smart HBA H244br
- ・ HPE Smart HBA H240ar
- ・ HPE Smart HBA H450ar
- ・ HPE Smart アレイ E208i-a SR Gen10
- ・ HPE Smart アレイ P408i-a SR Gen10
- ・ HPE Smart アレイ P204i-b SR Gen10

表 10: サポートされている M.2 ドライブ構成

ストレージコントローラー	M.2 ドライブとフロントドライブがインストール済み	M.2 ドライブだけインストール済み
B140i	すべてのローカルストレージが HPE OneView によって管理されている必要がある	M.2 ドライブが HPE OneView によって管理されている。プロファイルの移動なし
P244br H244br P246br	フロントドライブは HPE OneView によって管理されている M.2 ドライブを HPE OneView 外で手動で管理する必要がある	M.2 ドライブは HPE OneView によって管理されない。HPE OneView 外で手動で管理する必要がある

ローカルストレージをサポートする ProLiant DL サーバー

注記: サポートされている Gen10 サーバーは、すべてローカルストレージをサポートしています。

表 11: ローカルストレージをサポートする ProLiant DL サーバー

モデル	Gen8	Gen9	Gen 10
DL360		✓	✓ ¹
DL360p	✓		
DL380		✓	✓ ¹
DL380p	✓		
DL560	✓	✓	✓
DL580	✓	✓	✓

¹ このモデルでは、ProLiant DL で HPE コンポーザブルクラウドをサポートしています。

ハイパーバイザーマネージャー

VMware vCenter Server をハイパーバイザーマネージャーとして HPE OneView に登録することができます。このハイパーバイザーマネージャーは、ハイパーバイザーとクラスターを管理するために、ハイパーバイザークラスタープロファイルによって使用されます。

VMware vCenter Server	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6.0 ・ 6.0 Update 1 ・ 6.0 Update 2 ・ 6.0 Update 3 ・ 6.5 ・ 6.5 Update 1 ・ 6.5 Update 2 ・ 6.7 Update 1
-----------------------	--

管理対象ハイパーバイザークラスターのハイパーバイザー

ハイパーバイザークラスターのプロファイルを使用して、HPE Virtual Connect をサポートし、HPE OneView によって管理されるサーバー上で実行されるハイパーバイザーのクラスターを管理できます。HPE ProLiant BL ブレードサーバー — Gen8、Gen9、Gen10 が該当します。さらに、ProLiant DL ソリューションの HPE コンポーザブルクラウド内で、ハイパーバイザークラスターを使用して、ハイパーバイザーのクラスターを管理できます。クラスターは、HPE コンポーザブルファブリックに接続されて、HPE OneView によって管理され、ソリューションと一緒に購入された DL Gen10 サーバーで実行されています。

クラスターとして管理できるサポート対象のハイパーバイザーは、以下のとおりです。

VMware vSphere ESXi	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6.0 ・ 6.0 Update 1 ・ 6.0 Update 2 ・ 6.0 Update 3 ・ 6.5 ・ 6.5 Update 1 ・ 6.5 Update 2 ・ 6.7 Update 1
---------------------	--

ハイパーバイザークラスターのプロファイルでは OS 展開プランを **None** として指定し、任意の外部ツールを使用してサーバーにハイパーバイザーを展開することができます。外部ツールを使用して展開されるハイパーバイザーは、ハイパーバイザークラスタープロファイルにインポートして管理できます。

ハイパーバイザークラスタープロファイルを使用すると、ハイパーバイザークラスターの拡張または縮小などのライフサイクル操作の管理、構成の変更、整合性チェックやローリングアップデートの実施が可能です。またサーバーノードで無停止ファームウェアアップデートを実行することもできます。

ハイパーバイザーを展開するために、ハイパーバイザークラスターおよび **HPE Insight Control サーバープロビジョニング** を管理する **HPE OneView for VMware vCenter** を使用する場合は、**HPE Insight Control サーバープロビジョニング** の展開プランで構成されるハイパーバイザークラスタープロファイルが HPE OneView に表示されます。HPE OneView のユーザーインターフェイスを使用してこれらのハイパーバイザークラスターのプロファイルを編集することはできません。ただし、ローリングアップデートを使用した不整合の表示および解決、サーバーノードでの無停止のファームウェアアップデートなど、他のライフサイクル操作は管理できます。

HPE OneView は現在ハイパーバイザークラスターのプロファイルを使用した VMware vSAN クラスターのライフサイクルの管理をサポートしていません。

FIPS および CNSA モードでの HPE OneView 仮想アプライアンスのデバイスサポート

以下の表に、連邦情報処理規格 (FIPS) または Commercial National Security Algorithm (CNSA) モードに切り替えたときに HPE OneView 仮想アプライアンスによって管理されるデバイスの機能を示します。

❗ **重要:** FIPS/CNSA 暗号化は、c7000 以外のハードウェアを管理する VM アプライアンスにのみ適用されます。

FIPS モード情報

デバイス/外部サーバー	HPE OneView FIPS モードでのサポート	ユーザーによる必要なアクション	FIPS モードでサポートされない場合に、FIPS モードに切り替えたときのデバイス/機能の想定される動作	説明
インテリジェントモジュラー PDU (iPDU)	いいえ	iPDU は TLSv1.1+をサポートしません。 最大キーサイズは 1024 で、SNMPv3 はサポートされないため、基本的には FIPS に対応していません。		Unmanaged 状態に移動されます。モード切り替え中にすべての iPDU で「互換性レポート」という警告メッセージ (静的) が表示されます。
サーバーハードウェア、ファームウェア、ドライバーのアップデート	はい	はい、オンラインアップデートの場合、ユーザーが SUT CLI から iLO 5 認証情報を入力する必要があります。	互換性レポートに、オフラインモードの iLO 5/Gen10 サーバープラットフォームではアップデートが機能しないことを通知する一般的な警告が表示されます。オンラインモードの場合は、SUT をインストールし、CLI を使用して認証情報を入力するように通知するアラートに変更されます。FIPS モードの iLO 4 ではアップデートを引き続き利用可能です。	

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView FIPS モードでのサポート	ユーザーによる必要なアクション	FIPS モードでサポートされない場合に、FIPS モードに切り替えたときのデバイス/機能の想定される動作	説明
外部レポジトリ	いいえ	いいえ	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	外部レポジトリは、FIPS/CNSA モードではまだサポートされていません。内部レポジトリは、すべてのモードで引き続き動作します。
エンタープライズディレクトリサーバーなどの外部レポジトリ	はい	エンタープライズディレクトリサーバーが FIPS に準拠するようにすでに構成済みの場合は、アクションは必要ありません。構成済みでない場合、ユーザーは TLS プロトコル暗号スイートとエンタープライズディレクトリサーバーで FIPS に準拠するように構成された証明書を構成する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	エンタープライズディレクトリサーバーとの通信では TLS 接続が使用されるため、サーバーのプロトコルと暗号スイートが HPE OneView のそれらと一致すればシームレスに連携されます。
メールサーバーなどの外部レポジトリ	TLS オプション使用であれば「はい」	SMTP サーバーが FIPS に準拠するようにすでに構成済みの場合は、アクションは必要ありません。構成済みでない場合、ユーザーは TLS プロトコル暗号スイートと SMTP サーバーで FIPS に準拠するように構成された証明書を構成する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView FIPS モードでのサポート	ユーザーによる必要なアクション	FIPS モードでサポートされない場合に、FIPS モードに切り替えたときのデバイス/機能の想定される動作	説明
リモートバックアップサーバーなどの外部レポジトリ	はい	はい。互換性レポートに記載された、サポートされているアルゴリズムと一致するように SSH アルゴリズムを変更する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	リモートバックアップサーバーには、制限されている暗号と自動ネゴシエートする SMTP および SSH アウトバウンド接続があります。
プロキシサーバーなどの外部レポジトリ	はい	いいえ。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	プロキシサーバーとの通信では TLS 接続が使用されるため、サーバーのプロトコルと暗号スイートが HPE OneView のそれらと一致すればシームレスに連携されます。
ファームウェア 1.11 以降の iLO 5 (Gen10 またはそれ以降)	はい	はい。iLO がまだ FIPS モードになっていない場合または iLO を手動で FIPS モードにする必要がある場合は、FIPS 強度証明書を iLO に追加しなければならないことがあります。FIPS モードにすると、工場出荷時設定にリセットされます。ユーザーは、その時点でサーバーを更新する必要があります。		ファームウェア 1.11 のリビジョンが FIPS 検証のために送信されます。

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView FIPS モードでのサ ポート	ユーザーによる必 要なアクション	FIPS モードでサ ポートされない場 合に、FIPS モード に切り替えたとき のデバイス/機能の 想定される動作	説明
ファームウェア 1.11 以降の iLO 4 (Gen8/Gen9)	いいえ	はい。iLO がまだ FIPS モードになっ ていない場合また は iLO を手動で FIPS モードにする 必要がある場合は、 FIPS 強度証明書を iLO に追加しなけ ればならないこと があります。FIPS モードにすると、工 場出荷時設定にリ セットされます。 ユーザーは、その時 点でサーバーを更 新する必要があります。		
ファームウェア バージョンが 2.11 以前の iLO 4 (Gen8/Gen9)	いいえ	デバイスを使用す る前に、ファーム ウェアをアップグ レードします。	互換性レポートに 一般的な警告が表 示されます。	

CNSA モード情報

デバイス/外部サーバー	HPE OneView CNSA モードでサポート	ユーザーによる必要なアクション	CNSA モードでサポートされていない場合、CNSA モードに切り替えたときにデバイス/機能に想定される動作	説明
インテリジェントモジュラー PDU (iPDU)	いいえ	iPDU は TLSv1.1+をサポートしません。 最大キーサイズは 1024 で、SNMPv3 はサポートされないため、基本的には FIPS に対応していません。		Unmanaged 状態に移動されます。モード切り替え中にすべての iPDU で「互換性レポート」という警告メッセージ（静的）が表示されます。
サーバーハードウェアファームウェアおよびドライバのアップデート (オフラインのファームウェアアップデート)	はい	対応する必要はありません。 ファームウェアのみ オプションでは、CSNA モードでファームウェアアップデートがサポートされます。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	
サーバーハードウェアファームウェアおよびドライバ (オンラインのファームウェアアップデート)	いいえ	はい、オンラインアップデートの場合、ユーザーが SUT CLI から iLO 5 認証情報を入力する必要があります。	互換性レポートに、オフラインモードの iLO 5/Gen10 サーバープラットフォームではアップデートが機能しないことを通知する一般的な警告が表示されます。オンラインモードの場合は、SUT をインストールし、CLI を使用して認証情報を入力するように通知するアラートに変更されます。FIPS モードの iLO 4 ではアップデートを引き続き利用可能です。	

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView CNSA モードでサポート	ユーザーによる必要なアクション	CNSA モードでサポートされていない場合、CNSA モードに切り替えたときにデバイス/機能に想定される動作	説明
外部レポジトリ	いいえ	外部レポジトリをホストしている Web サーバーで FIPS/CNSA モード設定を有効にする必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	外部レポジトリは、FIPS/CNSA モードではまだサポートされていません。内部レポジトリは、すべてのモードで引き続き動作します。
エンタープライズディレクトリサーバーなどの外部レポジトリ	はい	エンタープライズディレクトリサーバーが CNSA に準拠するようにすでに構成済みの場合は、アクションは必要ありません。構成済みでない場合、ユーザーは TLS プロトコル暗号スイートとエンタープライズディレクトリサーバーで CNSA に準拠するように構成された証明書を構成する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	エンタープライズディレクトリサーバーとの通信では TLS 接続が使用されるため、サーバーのプロトコルと暗号スイートが HPE OneView のそれらと一致すればシームレスに連携されます。
メールサーバーなどの外部レポジトリ	TLS オプション使用であれば「はい」	SMTP サーバーが CNSA に準拠するようにすでに構成済みの場合は、アクションは必要ありません。構成済みでない場合、ユーザーは TLS プロトコル暗号スイートと SMTP サーバーで CNSA に準拠するように構成された証明書を構成する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView CNSA モードでサポート	ユーザーによる必要なアクション	CNSA モードでサポートされていない場合、CNSA モードに切り替えたときにデバイス/機能に想定される動作	説明
リモートバックアップサーバーなどの外部レポジトリ	はい	はい。互換性レポートに記載された、サポートされているアルゴリズムと一致するように SSH アルゴリズムを変更する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	リモートバックアップサーバーには、制限されている暗号と自動ネゴシエートする SMTP および SSH アウトバウンド接続があります。
プロキシサーバーなどの外部レポジトリ	はい	いいえ。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	プロキシサーバーとの通信では TLS 接続が使用されるため、サーバーのプロトコルと暗号スイートが HPE OneView のそれらと一致すればシームレスに連携されます。
iLO 5 (Gen10 以降)	はい	iLO を SuiteB モード (実際には CNSA モード) にする必要があります。このアクションには、iLO Advance 高セキュリティ ライセンスが必要です。また SuiteB モードは、iLO が FIPS モードの場合のみ利用可能です。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	
iLO 4 (Gen9)	いいえ		互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	

構成の上限

割り当てられる ID

表 12: 割り当てられる ID の構成の上限

リソース	最大
MAC 範囲	66,240
WWN 範囲	15,360
仮想 SN (シリアル番号) 範囲	1,280

アプライアンス

表 13: アプライアンスの構成の上限

リソース	最大
ファームウェアバンドルの最大ディスク容量	100 GB
同時使用ユーザー数	5

注記: ユーザーは、外部レポジトリを使用して SPP を追加できます。

接続

表 14: 接続の構成の上限

リソース	最大
物理ポートごとの接続数 (FlexNIC の上限)	8 ¹
サーバー 1 台当たりの物理ポート数 :	
ハーフハイтサーバーブレード	6 ポート (デュアルポート LOM カードおよび 2 つのメザニンカード)
フルハイтサーバーブレード	10 ポート (2 つのデュアルポート LOM カードおよび 3 つのメザニンカード)
サーバー 1 台当たりの接続数 (平均)	24
予約済み接続数 ²	4,800
展開済み接続数 ³	61,440
接続の総数	66,240

¹ 構成詳細については、「[アダプターおよび HPE Virtual Connect の構成](#)」を参照してください。

² すでに作成されているが、特定のインターコネクトダウンリンクに関連付けられていない接続。

³ 物理インターコネクトポート、および場合によってはサブポート（サーバーの FlexNIC）に割り当てられた接続数。

SAN ストレージ

表 15: エンクロージャーの構成の上限

リソース	最大
ボリューム	10,000
ストレージシステム	40

エンクロージャー

表 16: エンクロージャーの構成の上限

リソース	最大
エンクロージャー	54
エンクロージャーグループ	54
論理エンクロージャー	54
すべてのエンクロージャーにあるインターコネクト	240

ネットワークの制限

表 17: ネットワーク構成上の上限値

リソース	最大
ネットワークセットの総数	1,000
通常のネットワークセット当たりのイーサネットタグ付ネットワーク数（ブレードシステムおよびラックマウント型）	162
大規模ネットワークセット当たりのイーサネットタグ付ネットワーク数（ラックマウント型）	4000
論理インターコネクトグループ	240

表は続く

リソース	最大
論理インターコネクト	240
論理インターコネクト当たりのアップリンクセット数	144

ネットワーク

表 18: ネットワークの構成の上限

リソース	最大
定義された、タグ付き、タグなし、トンネル、および FCoE ネットワーク数	8,192
論理インターコネクト当たりのプロビジョニング済み Ethernet ネットワーク数	1,000
定義可能なネイティブ FC ネットワーク数 (FCoE/FC ブリッジネットワークを含む)	255
インターコネクト 1 つ当たりのファイバーチャネルネットワーク数	8
論理インターコネクトまたはエンクロージャー 1 つ当たりのファイバーチャネルネットワーク数	48
ファイバーチャネルとして最大 5 つ指定できる論理インターコネクト当たりの SNMP トラップのあて先。	25
論理インターコネクトまたはエンクロージャー 1 つ当たりのネットワーク数	1,048
物理ダウンリンク 1 つ当たりのネットワーク数 (ブレードシステム)	162
物理ダウンリンク 1 つ当たりのネットワーク数 (ラックマウント型)	4000
アップリンクセット当たりのネットワーク数	1,000
アップリンクセットまたはインターコネクト当たりの FCoE ネットワーク数	32
論理インターコネクトごとのプライベートネットワーク最大数	128

電源および設備

表 19: 電源および設備の構成の上限

リソース	最大
データセンター	640
ラック	640
PDD（電力供給デバイス）	82,016
非管理デバイス	26,880
iPDU	2,560
iPDU コンポーネント（ロードセグメントとコンセント）	76,800
分岐回路	2,560
ブレーカーパネル	64
給電	32

サーバーハードウェア

表 20: サーバーの構成の上限

リソース	最大
エンクロージャー	54
サーバーの総数 ¹	1024
管理対象サーバー	740
監視対象サーバー	1024
ラックマネージャー	20
サーバーの総数 ²	160
インターコネクトモジュール	240

¹ サーバーを管理対象または監視対象として追加できます。HPE OneView では、管理対象サーバーと監視対象サーバーを、各タイプの最大サポート台数まで任意に組み合わせて追加できます。

² ラックマネージャーサーバーを監視対象として追加できます。サポートされるサーバーの数は、20～160 の間で異なります。

- ・ 20 台のサーバー：1 つのラックマネージャーで 8 つのシャーシからなるパーティションが 1 つ
- ・ 160 台のサーバー：1 つのラックマネージャーで 1 つのシャーシからなるパーティションが 8 つ

サーバープロファイル

表 21: サーバープロファイルの構成の上限

リソース	最大
割当て済みのサーバープロファイルの総数	740
未割当てのサーバープロファイルの総数	100

証明書チェーンの深さ

表 22: 証明書チェーンの深さの構成最大値

リソース	最大
証明書チェーンに存在する CA 証明書の数	9

ハイパーバイザークラスタープロファイル

表 23: ハイパーバイザークラスタープロファイル構成の最大値

リソース	最大
100 のネットワークで構成されているハイパーバイザークラスターのプロファイルによって管理されるハイパーバイザーの数	32
200 のネットワークで構成されているハイパーバイザークラスターのプロファイルによって管理されるハイパーバイザーの数	24

Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Information Library	www.hpe.com/info/enterprise/docs
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	www.hpe.com/support/hpesc
Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide	http://www.hpe.com/assistance
HPE OneView のドキュメント	www.hpe.com/info/oneview/docs
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	http://www.hpe.com/support/e-updates-ja
Software Depot	www.hpe.com/support/softwaredepot
カスタマーセルフリペア	www.hpe.com/support/selfrepair
HPE OneView FAQ ドキュメントのリモートサポート	リモートサポートのドキュメント (英語)
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス	www.hpe.com/storage/spock
HPE Virtual Connect のユーザーガイド	http://www.hpe.com/info/vc/manuals
HPE Virtual Connect のコマンドラインリファレンス	
HPE 3PAR StoreServ ストレージ	http://www.hpe.com/info/storage
iLO	http://www.hpe.com/jp/servers/ilo
HPE BladeSystem エンクロージャー	http://www.hpe.com/info/blades-ja
HPE ProLiant サーバーハードウェアの Web サイト	<ul style="list-style-type: none">一般的な情報 : http://www.hpe.com/info/servers-jaBL シリーズサーバーブレード : http://www.hpe.com/info/blades-jaDL シリーズラックマウント型サーバー : http://www.hpe.com/servers/dl
ProLiant DL 向け HPE コンポーザブルクラウド	Hewlett Packard Enterprise Information Library
ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート	www.hpe.com/storage/whitepapers

HPE OneView Remote Technician

HPE OneView Remote Technician による問題の解決の迅速化。HPE OneView Remote Technician を使用すると、問題のトラブルシューティングおよび解決のサポートが迅速かつ容易になります。招待により、認証された HPE サポート技術者が、問題のトラブルシューティングと診断に安全な TLS 接続を通じて HPE OneView アプライアンスにアクセスします。

- ・ FTP サイトを必要としないログの直接ダウンロードなど、信頼された HPE サポート技術者が問題を診断する際に現場にいる必要がありません。
- ・ HPE OneView Remote Technician は、追加のアプリケーションなしで HPE OneView 4.1 以降に組み込まれます。
- ・ HPE OneView Remote Technician にアクセスするには、**HPE OneView の設定ページ内にある診断メニュー**を開きます。
- ・ HPE OneView Remote Support は必要ありません。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ・ ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/info/assistance>

- ・ ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- ・ テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- ・ 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- ・ オペレーティングシステム名およびバージョン
- ・ ファームウェアバージョン
- ・ エラーメッセージ
- ・ 製品固有のレポートおよびログ
- ・ アドオン製品またはコンポーネント
- ・ 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- ・ 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- ・ 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<http://www.hpe.com/support/downloads>

Software Depot

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- ・ eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- ・ お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

- ❗ **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE プロアクティブケアサービス : サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス : サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

保証情報

ご使用の製品の保証に関する情報を表示するには、以下のリンクを参照してください。

HPE ProLiant と IA-32 サーバーおよびオプション

<http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE Enterprise および Cloudline サーバー

<http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。